



第 16 回日本透析クリアランスギャップ研究会学術集会が

2022 年 8 月 20 日(土)~21 日(日)に

メルパルク京都にて開催予定です。

当院からは臨床工学科 野口 幸 技士長
臨床工学科 奥 拓也 技士が

学術発表されますので、ご紹介します。

WELCOME TO
KYOTO

第16回

日本透析クリアランスギャップ研究会学術集会

承前啓後 Transformation from Japan

会期 2022年8月20日(土)・21日(日)

大会長 佐藤 暢 特定医療法人 桃仁会病院
院長・バスキュラーアクセスセンター長

副大会長 人見 泰正 特定医療法人 桃仁会病院
臨床工学部 部長

会場 メルパルク京都 (京都市下京区東塩小路町 676 番 13)

大



EVT にレオカーナを併用することで大切断を回避できた透析 CLTI 患者の 1 例

医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 循環器内科²⁾ 透析センター³⁾
野口 幸¹⁾ 川西 大¹⁾ 二神徳明¹⁾ 辻本大輔²⁾ 福井寛人²⁾ 名方 剛²⁾ 齊藤精久²⁾
山岡みゆき³⁾ 吉岡伸夫³⁾

【症例】

80 歳代女性の維持透析患者で、左下肢の疼痛を伴う左第 2-4 趾の潰瘍形成が出現した。左下肢 SPP では Dosal /Plantar 21/19mmHg、Rutherford 分類：III、Wifi 分類（W：grade 2・I：grade 3・fi：grade 2）stage 4 であった。2022 年 3 月に下肢造影を行い、SFA 90%、POP-A 90%、ATA 99%、PA 100%、PTA 100%の病変に対して ATA に EVT を行った。ATA は広範性の高度石灰化を伴う病変で、遠位部まで balloon の通過が不可能で、中間部から近位部のみ拡張し終了とした。しかし、SPP の改善は認めず、下肢の疼痛が増悪したので、微小循環改善目的でレオカーナを導入した。レオカーナ導入後、SPP の値は改善したが、左第 3 趾は壊死化し、さらに、第 2・4 趾も潰瘍が進行したので、同年 4 月に再度 EVT による血行再建術を試みた。下肢造影では、ATA の再狭窄と SFA 入口部と POP-A 病変部の進行を認めたので追加治療を行った。治療後の造影では、足趾まで良好な血流を得ることができたので終了とした。EVT 後、第 3 趾は PIP 関節で切断、レオカーナは継続し計 15 回施行、SPP も良好な値で経過した。第 3 趾の切断面も術後良好に経過し、第 2、第 4 趾の潰瘍も、洗浄とネグミンシュガー軟膏で消失した。現在は独歩も可能となり経過良好である。

【結語】

足趾の潰瘍と壊死を認める透析患者の CLTI は予後不良である。レオカーナは、微小循環の改善が良いといわれているので、EVT で治癒できない CLTI 患者に有効な方法であると考えられる。本症例は、EVT にレオカーナを併用することで下腿、足趾の循環不全が改善することで大切断を回避できたと考えられた。

High flow on-lineHDF (HFH) におけるアミノ酸漏出抑制効果の検討

医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾
奥拓也¹⁾ 中山雄斗¹⁾ 二神徳明¹⁾ 野口幸¹⁾ 山岡みゆき²⁾ 吉岡伸夫²⁾

【目的】

アミノ酸は筋肉を構成する栄養素で身体にとって重要であるが、1回のHDで5~8mgの損失がある。近年、HFHがHDと比べて透析液中へのアミノ酸漏出を低減するとの報告が散見されるようになってきたので、その有用性を報告する。

【方法】

2021年10月~11月で、当院透析患者10名を対象とした。方法はHDとHFHをクロスオーバーで検討した。HDはQB 200mL/min、QD 500mL/minでAPS-21UAを使用した。HFHはQB 200mL/min、QD 600mL/min、QS 350mL/min、でMFX-21Mecoとした。評価項目は、アミノ酸9種類でバリン、メチオニン、イソロイシン、ロイシン、チロシン、フェニルアラニン、リジン、ヒスチジン、アルギニンの漏出量を比較し、溶質除去性能を比較するため β_2 -MG、 α_1 -MG、UN、UA、CreとAlb漏出量も比較した。

【結果】

アミノ酸漏出量は、HFHがHDに比べて漏出を抑制できた($P<0.01$)、また、HFHで β_2 -MGと α_1 -MGの除去量が多かった($P<0.01$)。Alb漏出量はHFHがHDに比べて、漏出量が多かった($P<0.05$)。

【考察】

HFHのQSは250mL/minで、通常のOn-lineHDFで設定するQS 200mL/minと比べて多くなる。QSの増加は、拡散効率より濾過効率が增大するので、小分子であるアミノ酸の漏出は抑制できたと考えられた。また、HFHは濾過量が増すことで β_2 -MGと α_1 -MGの除去は増大したと考えられた。

【結語】

HFHは低栄養患者に対してアミノ酸漏出を抑制できる透析療法である。